

平成 30 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

校訓「自由と規律」のもと、人間尊重に徹した、真に国際社会に通用する「明るく、たくましく、心爽やかな人間」を育成する。

1. キャリア・アップ（より高い資質や能力を身につける）をめざして夢・目標を主体的に見つけようと努力し、進路実現に向けてまじめに積極的に取り組む生徒を育てる。

2. 授業だけでなく、学校行事や部活動・ボランティア活動にも意欲的に参加する生徒を育てる。

3. 挨拶や社会のマナーを大切にし、社会に貢献する人になる意欲のある生徒を育てる。

2 中期的目標

1. 確かな学力の育成
- (1) 「わかる授業、考える授業」をめざし授業力向上に取り組む。
- ア 授業力向上委員会を核に相互授業観察、研究授業などの計画的実施、授業アンケートの効果的活用など、授業力向上に組織的に取り組み、ICT 機器を活用した効率的な授業についても研究を進める。
- ※生徒向け学校教育自己診断における授業満足度の肯定的回答（平成 29 年度 58%）を毎年 3 ポイント引上げ、2020 年度には 67%にする。
2. 夢と希望を持つ生徒育成
- (1) 生徒の希望する進路の実現に向けて、組織的・計画的な進路指導体制を確立する。
- ア 3 年間を通して継続的かつ計画的に進路指導に取り組み、大学・短大、専門学校および職業などについてキャリア教育を行う。
- イ 3 年間を通した計画的な講習の実施により、早期から進路実現に向けて努力させる。
- ※進学率 85%以上（平成 29 年度 79.5%）、未定率 2%以下（平成 29 年度 1.0%）を維持する。
- (2) 「総合的な学習の時間」とLHRを有機的に連携させ、キャリア教育、人権教育等を総合的に行うことができる指導計画を確立する。
- ※生徒向け学校教育自己診断における進路に関する情報提供の肯定的回答（平成 29 年度 72%）を毎年 2 ポイント引上げ 2020 年度には 78%にする。
- ※生徒向け学校教育自己診断における人権について学ぶ機会の肯定的回答（平成 29 年度 79%）の 80%以上を維持する。
- (3) 保護者向け進路説明会の実施および保護者への進路情報の提供
- ア 保護者向け進路説明会の内容を充実させ、保護者が参加しやすい説明会を企画、実施すると共に、進路情報を積極的に発信する。
- ※保護者向け学校教育自己診断における進路に関しての情報提供（平成 29 年度 56%）を毎年 2 ポイント引上げ 2020 年度には 62%にする。
3. 安全安心で魅力のある学校づくり
- (1) 生徒の規範意識を醸成すると共に、個々の生徒への支援体制を強化する。
- ア 朝の職員連絡会やSHRを通して、生徒の状況を把握、共有し、望ましい生活習慣、生活規範の確立に向けた指導を行う。
- イ 教育相談体制を充実させ、生徒や保護者そして教職員も安心して相談できる体制を作る。
- ウ 互いの違いを認め合い、「ともに生きる」精神を育成し、学校に来るのが楽しいと感じる環境を作る。
- ※遅刻（平成 29 年度 4142 件）を毎年 100 件ずつ減少させ、2020 年度には 3800 件以下にする。
- ※生徒向け学校教育自己診断における「先生は悩みごとや相談ごとを聞いてくれる」の肯定的回答（平成 29 年度 70）を毎年 2 ポイント引上げ 2020 年度には 76%にする。
- ※生徒向け学校教育自己診断における「学校へ行くのが楽しい」の肯定的回答（平成 29 年度 69%）を毎年 2 ポイント引上げ 2020 年度には 75%にする。
- (2) 特別活動や生徒会活動を通じて生徒の自己肯定感を醸成するとともに、集団や学校への帰属意識を高める。
- ア クラブや文化祭などの生徒の自主的な活動を活性化させるために、仲間と協力して内容の充実をめざすよう教職員が支援する。
- ※生徒向け学校教育自己診断における「文化祭は楽しく行えるよう工夫されている」の肯定的回答（平成 29 年度 66%）を毎年 2 ポイント引上げ 2020 年度には 72%にする。
- ※生徒向け学校教育自己診断における「体育大会は楽しく行えるよう工夫されている」の肯定的回答（平成 29 年度 49%）を毎年 2 ポイント引上げ 2020 年度には 55%にする。
- (3) 生徒が安全に安心して学校生活を送ることができるよう保護者との連携および環境の整備を行う。
- ア 保護者との連絡を密にし、生徒が安全・安心に学校生活を送られるようにする。
- イ 事故防止の取り組みを進めるとともに、緊急事態発生時の連絡体制の徹底を図り、適切かつ円滑な対応ができるようにする。
- ※職員向け学校教育自己診断における「事故・事件等に迅速・適切に対応」（平成 29 年度 61%）を毎年 2 ポイント引き上げ 2020 年度には 67%にする。
4. 地域・保護者と連携した学校づくり
- (1) 学校 Web ページを充実させ広報活動に努める。
- ア Web ページおよびブログを定期的に更新し、本校の取り組みを地域・保護者に発信する。
- ※保護者向け学校教育自己診断における「学校は教育情報について提供の努力をしている」の肯定的回答（平成 29 年度 55%を毎年 2 ポイント引き上げ 2020 年度には 61%にする。
- (2) 地域との連携に取り組む
- ア KEYS（貝塚警察署との連携した活動）等のボランティア活動を継続発展させる。
- イ 地域の学校等との連携を活発に行う。
- (3) 広報活動を活性化し、本校の取り組みを中学生や保護者、地域に発信する。
- ア 本校で実施する学校説明会をさらに充実させると共に、外部の学校説明会などにも積極的に参加する。
5. 教職員の資質向上と意識改革
- (1) ICTを活用して校務の効率化を図る。
- ア ICT機器を効率的に活用し、さまざまなデータの共有・情報共有を行うと共に、事務作業等の軽減化を図り、生徒と向き合う時間を確保する。
- (2) 校内での教職員研修を積極的に行うと共に、外部で実施される研修等にも積極的に参加する。
- ア 教職員の資質向上をめざした教員研修を計画的に実施する。
- (3) 働き方改革の取り組みを行い、職員が生徒と向き合う時間を増やす。
- ア 校務の見直しを行うと共に、継続性を持った業務を実施することにより、職員の負担を軽減する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔平成 年 月実施分〕	学校運営協議会からの意見
	第 1 回（ 月 日実施）
	第 2 回（ 月 日実施）
	第 3 回（ 月 日実施）

3 本年度の取組内容および自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 確かな学力の育成	(1)「わかる授業・考える授業」をめざした授業力向上 ア 授業力向上をめざした取組	(1) ア 授業力向上委員会が中心となり、授業力向上の取組（研修、相互授業観察、研究授業など）を計画的に実施する	(1) ア 授業観察週間の実施、授業の相互観察年間延べ(H29 191回)180回以上を維持	
	イ 授業アンケートの効果的活用	イ 授業アンケートを実施し、各教員が結果を分析し、「授業アンケート結果分析シート」を作成する	イ 2回の授業アンケート実施後に全教員が「授業アンケート結果分析シート」を提出する 学校教育自己診断(生徒)の「授業が分かりやすい」の肯定的回答(H29 58%)65%以上 第2回授業アンケートの「興味関心を持つことができた」のよくあてはまる(H29 29%)33%以上 第2回授業アンケートの「知識技能が身についた」のよくあてはまる(H29 30%)35%以上	
	ウ ICT 機器を活用した授業の研究・実施	ウ ICT 機器を活用した授業力向上について研究を進め、ICT 機器を活用した研究授業を実施 昨年度全教室に設置したプロジェクター等を有効に活用する	ウ ICT 機器活用に関する研修を4回以上実施する(H29 2回) ICT 機器を活用する教員の割合（H29 52%）70%以上	
	エ 自学自習の推進	エ 授業を通じて教科・科目の学習への興味・関心を高める努力を進める ・生徒の生活実態を把握し、学校だけでなく家庭での学習時間を確保し、授業に臨めるようにする	エ 基礎学力調査(9月実施分)の1日あたりの学習時間1時間程度以上の割合（H29 1年 30%、2年 21%）1年 35%以上、2年 25%以上	
	オ 図書館の活用および読書活動の推進	オ 図書館を授業や総合的な学習の時間で多目的に活用すると共に、図書館の利用を促す 図書館の図書の実充に努めると共に、図書委員の活動を活発にし、生徒の読書活動を推進する	オ 校内読書感想コンクールの継続実施 図書委員の活動を年間(H29 49回)50回以上実施 年間の図書貸し出し冊数(H29 153冊)300冊以上	
2 夢と希望を持つ生徒育成	(1)生徒の希望する進路の実現 ア 3年間を通して進路指導に取り組む	(1) ア 進路目標を早期に設定させる取り組みを行い、3年間を見通した指導計画を立て、HRや総合的な学習の時間等を通じて、計画的にキャリア教育を行う	(1) ア HR等を活用した学年全体での取り組み(H29 1年5回2年5回3年3回)1・2年5回、3年3回以上実施	
	イ 生徒情報の共有	イ 定期考査および基礎学力調査の結果から生徒の学力推移を分析し、進路指導に活かす。 また、進路希望等の情報を学年・教科・分掌間で共有し、希望する進路を見据えた指導を行う	イ 基礎学力調査後に分析会を実施(1・2年2回、3年1回) 学校教育自己診断(保護者)の「将来の進路や職業について適切な指導」の肯定的回答(H29 60%)63%以上	
	ウ 計画的な講習の実施	ウ 進路目標達成に向け、進路指導部が中心となり、進学や就職のための説明会や講習等を計画・実施する	ウ 各学年進学講習1年30回、2年70回、3年250の計300回以上を維持(H29 314回)	
	エ 進路情報の積極的な発信	エ 進路だよりや進路説明会などを通して、最新の進路情報を積極的に提供し、進路に対する理解を深める	エ 学校教育自己診断(生徒)の「進路に関する情報が十分提供されている」の肯定的回答(H29 71%)75%以上	
	(2)コミュニケーション能力の育成 ア 班活動や発表機会を増やす	(2) ア 各授業、HR、総合的な学習の時間、学校行事などを通じて、班活動の実施や生徒が発表する機会を増やす	(2) ア 学校教育自己診断(生徒)の「自分の考えをまとめたり、発表したりする授業がある」の肯定的回答(H29 60%)55%以上	
	(3)保護者への進路情報の提供 ア 保護者向け進路説明会の内容充実	ア 保護者向け進路説明会の内容を充実させ、保護者が参加しやすい説明会を企画する	ア 保護者向け進路説明会への参加(H29 157名)160名以上	
	イ 保護者への進路情報の積極的な発信	イ 進路だよりなど保護者への情報提供も見据えて作成すると共に、メール配信なども活用して、保護者に確実に情報が伝わるようにする	イ 学校教育自己診断(保護者)の「進路に関しての情報提供」の肯定的回答(H29 56%)60%以上	

府立貝塚南高等学校

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
3 安全 安心で 魅力の ある学 校づく り	(1)生徒の規範意識の醸成と支援体制の強化 ア 職員室の効率的な活用による指導力向上	(1) ア 職員室を効率的に活用し、日常的に生徒情報の共有を図ると共に、担任・副担、学年団などでの OJT を通じて、教員の指導力向上を図る	(1) ア 学校教育自己診断(職員)の「教員間での生徒に関する情報共有」の肯定的回答(新規)60%以上	
	イ 登校指導等を通じて、望ましい生活習慣、生活規範の確立に向けた指導を行う	イ 朝の登校指導や朝の SHR などを通じて、遅刻・服装・頭髪指導などの規律指導を行う ・指導の際に生徒が納得するよう丁寧に指導する	イ 朝の登校指導や昼休みの指導の継続実施 年間述べ遅刻回数(H29 4142 回)4000 回以下を目標とする 学校教育自己診断(生徒)の「先生の指導は納得できる」の肯定的回答 (H29 55%)57%以上	
	ウ 教育相談・支援体制の充実	ウ 教育相談委員会が中心となり、生徒が気軽に相談室を活用できるようにする ・SC との連携やケース会議の充実、関係機関等の連携を図る	ウ 学校教育自己診断(生徒)の「悩みごとや相談ごとを聞いてくれる」の肯定的回答 (H28 53%)55%以上	
	エ 互いの違いを認め合い、「共に生きる」精神を育成する	エ 人権教育の体系化を図り、生徒へ人権の大切さを学ばせる ・教職員の人権意識を高めるための研修機会について検討する	エ 学校教育自己診断(生徒)の「人権の大切さについて学ぶ機会」の肯定的回答 (H29 79%)80%以上 学校教育自己診断(教職員)の「いじめが起こった際の体制」の肯定的回答 (H29 82%)85%以上	
	(2)特別活動を通じ、豊かな高校生活を実現させる ア 部活動入部率の向上と部活動の活性化	(2) ア 新入生対象の部活動紹介や体験入部を通じ、部活動入部率の向上と部活動の活性化を図る	(2) ア 1 年生全員が体験入部。その後も継続的に加入勧誘。 部活動加入率 (H29 48%)50%以上	
	イ 学校行事の活性化	イ 生徒のニーズをつかみ、その実現により文化祭等の行事を活性化する	イ 学校教育自己診断(生徒)の「文化祭は楽しく行えるよう工夫」の肯定的回答 (H29 66%)68%以上 学校教育自己診断(生徒)の「学校へ行くのが楽しみ」の肯定的回答 (H29 69%)71%以上	
	(3)保護者との連携および環境の整備 ア 保護者との連携 イ 美化活動等の環境整備	(3) ア 日常的に家庭との連絡を密にし、保護者との連携により、生徒の指導や支援を行う イ 生徒保健委員会等の生徒主体の活動を尊重し、望ましい学習環境を自らの行動によって支える意識を高め、すべての生徒が進んで美化活動等の環境整備に取り組むことができるよう支援を行う。	(3) ア 学校教育自己診断(保護者)の「家庭への連絡や意思疎通を積極的に行っている」の肯定的回答 (H29 59%)60%以上 イ 学校教育自己診断(生徒)の「校舎内外の環境整備、美化」の肯定的回答(新規)56%以上	
	ウ 施設設備の点検・管理	ウ 校内の危険個所のチェックを行い、改修に努める	ウ 学校教育自己診断(職員)の「施設・設備についての点検・管理」の肯定的回答 (H29 54%)56%以上	

府立貝塚南高等学校

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
4 地域と連携した学校づくり	(1)開かれた学校作り ア 学校 Web ページ、 ブログによる情報発信	(1) ア 広報委員会が中心となり、学校 Web ページ およびブログの情報更新を活発に行うと共に、 内容の充実を図る	(1) ア ブログの更新を積極的に行い年間 180 回以上の更新(H29 186 回)を維持 Web ページのアクセス数 30,000 アクセス 以上(H29 29,197 アクセス)	
	イ メール配信の活用	イ メール配信を保護者に周知し、登録者を増 やすと共に、メール配信システムを効率的に 活用し、保護者への情報発信を行う	イ メール配信登録者を在籍数の 70%以 上(H29 67%) メール配信を活用し、日常的に情報発 信し年間 100 通以上(H29 63 通)	
	(2)地域への情報発信 ア ボランティア活動 の継続発展	(2) ア KEYS（貝塚警察署との連携）等ボランテ ィアの継続実施および内容充実	(2) ア 年間 8 回以上の活動実施を維持(H29 8 回)	
	イ 地域の学校等との 連携	イ 近隣の保育園での保育体験実習の継続実 施 部活動等を通じて地域との連携を図る	イ 保育体験実習を年間 10 回以上実施 を維持(H29 12 回) 中学校や地域との連携した活動とし て、年間 10 回以上の活動を行う(H29 11 回)	
5 教職員の資質向上と意識改革	(3)広報活動の活性化 ア オープンスクール 等学校説明会の実施	(3) ア 部活動オープンスクール、体験授業オー プンスクール、文化祭の公開などを通じて、中 学生向けに本校の取り組みを発信する	(3) ア 部活動オープンスクール、体験授業 オープンスクール、文化祭等への中学 生の参加者 370 名以上(H29 353 名)	
	(1)ICT 機器を活用し た校務の効率化 ア ICT 機器を活用し校 務の効率化を図る	(1) ア 統合 ICT の共有フォルダの活用など、デー タを共有化させることにより、教科・学年・ 分掌等それぞれの情報を共有し、校務の効率 化を図ると共に、校務を組織的かつ継続的に 行う	(1) ア 学校教育自己診断(職員)の「校務に 関する情報共有ができている」の肯定的 回答(新規)60%以上	
	イ 統合 ICT、校務処理 システムの活用	イ 統合 ICT や校務処理システムを効率的に活 用し、事務作業の軽減化を図る	イ 学校教育自己診断(職員)の「ICT 機 器や校務処理システムの活用により校 務の効率を図ることができた」の肯定 的回答(H29 64%)65%以上	
	(2)教員研修実施、授 業見学や外部実施研 修への積極的参加	(2)	(2)	
	ア ニーズに合った教 員研修の実施	ア 教員の資質向上をめざした教員研修の実 施、若手教員を中心とした勉強会の積極的実 施	ア 職員研修 10 回(H29 12 回)以上を維 持、若手勉強会 10 回(H29 11 回)以上を 維持 他校への授業見学を含めた研修会を 1 回以上実施(H29 1 回)	
	イ 他校への授業見学 等	イ 他校への授業見学や授業研究に関する研 修会等への積極的参加	イ 他校への授業見学や授業研究に関 する研修会等へ 30 名(H29 27 名)、校内 での研究授業 7 回(H29 7 回)以上	
	(3)働き方改革の取組 ア 校務の見直しおよ び継続性を生かした 業務	(3) ア 仕事の精選をすると共に、継続性を追求 し、職員の異動等があっても授業や業務がス ムーズに行われるようし、働き方改革に繋げ る	(3) ア 教員の時間外勤務の月平均時間数 (H29 41 時間)40 時間以下	